

平成26年3月31日  
第111号

# NJ 素流協 News

平成26年3月31日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)  
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

## 「木質バイオマス供給の展望」 〜岩手県宮古市の木質バイオマス 専焼発電所の稼働開始にあたって〜

本年4月より、岩手県宮古市の集成材製造企業、(株)ウツテイかわが運営する木質バイオマス発電所が稼働を開始する。本発電所の規模は発電出力5800kWで、自社から出る製材端材のほか、間伐材や林地残材などのいわゆる「未利用材」を燃料とする、岩手県内で初めての本格的な木質バイオマス専焼発電プロジェクトである。当NJ素流協は原木供給の取りまとめ団体として、同発電所に対する燃料用木質バイオマス供給に取り組むこととしている。

これを受けて、東北各地でも大規模な太陽光発電施設や木質バイオマス発電所の建設計画が複数持ち上がっている。そのうち木質バイオマス発電プロジェクトの多くは、電気買取価格が最も高く設定されている間伐材等由来の未利用材の活用に関心を寄せている。

林野庁は同制度施行に先立って「発電利用に供する木質バイオマスの証明のためのガイドライン」を発表し、燃料用木質バイオマスの供給者が、バイオマスをその由来によって正しく分別管理し、証明を行うことを求めている。

▽再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)の施行  
平成24年7月に「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」に基づく「再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT)」が施行された。

▽林野庁ガイドラインにおける木質バイオマスの分類  
本紙第92号で既報の通り、燃料用木質バイオマスは、その原料の由来によって未利用材、一般木材、リサイクル木材に分類され、それ

それぞれ異なる電気買取価格が設定されている(表1)。

林野庁ガイドラインではこれらを次のように定義している。

①未利用材⇨間伐材等由来の木質バイオマス。森林における立木竹の伐採または間伐により発生する未利用の木質バイオマス(輸入されたものを除く)で、間伐材・除伐材と、森林経営計画対象森林、保安林、国有林、官行造林から伐採、生産された木材を言う。

②一般木材⇨一般木質バイオマス。

表1 「平成26年度 バイオマス発電電気の買取価格と期間」(資源エネルギー庁)

	等質バイオマスの由来	一般木質バイオマス	建設資材廃棄物
買取価格	32円+税	24円+税	13円+税
買取期間	20年間	20年間	20年間

【間伐材等由来の木質バイオマス】 間伐材、主伐材  
【一般木質バイオマス】 製材端材、輸入材、パーム椰子殻  
【建設資材廃棄物】 建設資材廃棄物、その他木材  
【一般廃棄その他のバイオマス】 剪定枝・木くず

木材の加工時等に発生する端材、おがくず、樹皮等の製材等残材と、  
①以外の木材で由来の証明が可能なものを言う。

③リサイクル木材Ⅱ建設資材廃棄物

このほか林野庁ガイドラインに準拠して分別管理されたことが確認できないものは、全て③の建設資材廃棄物とみなされる。

▽木質バイオマス原料の由来証明

これら燃料用木質バイオマスは、流通の際、「伐採及び伐採後の造林届出書」、「保安林伐採許可の通知」、「国有林立木の売買契約書」等の写しを添付することでその由来を証明しなければならぬ。証明は伐採から加工、流通へと、それぞれの段階ごとに引き継がれ、最終的に電力会社の電気買取段階での価格決定の根拠となる。

当NJ素流協では、従来の合法木材証明と同様、木質バイオマス供給事業者の認定団体となって、木材の管理・証明に関する事務を合法木材証明と一体的に行うこと

で、組合員の負担を少なくしながら確実な分別と供給管理を行うこととしている。NJ素流協に新規に加入する組合員は、あらかじめ分別管理責任者を定めて供給事業者認定を受けることになっており、この認定自体も3年ごとに更新することで有効性を保持することとしている。

▽「未利用材」の出荷可能量

未利用材はその名の通り、これまで利用されることなく、搬出コストがかかるために「伐り捨て間伐」材となったり、山に放置されて林地残材となっていた木材である。これを活用しようとする場合、どれほどの量が利用可能なのであるか。

林野庁は、「平成23年度木質系災害廃棄物等の活用可能性調査」で、青森、岩手、宮城、福島、東北4県における木質バイオマスのエネルギー利用への可能性を調査した。同調査では、県の森林計画区内の国有林と民有林を合わせて、間伐の実績、素材生産量、素材生産全

体における平均的な歩留まりを元に、実際に搬出することが可能な1年当たりの未利用材の量を推計している。試算結果は表2の通りで、岩手県は平成20年現在の実績に基づく推定で約36万m<sup>3</sup>、青森県は平成21年実績に基づく推定で約32万m<sup>3</sup>の未利用材が利用可能と算出された。

未利用材の利用可能量を試算する際、山元での集材方法が、算出結果を大きく左右する要因となる。

表2 林地残材の賦存量と利用可能量試算結果

	岩手県	青森県
賦存量	709千m <sup>3</sup> /年	631千m <sup>3</sup> /年
利用可能量	355千m <sup>3</sup> /年	316千m <sup>3</sup> /年

本調査では、林地賦存量の50%を集材したと仮定して利用可能量を算出しているが、他方、これを林道両側50m圏内の材に限定した場合、同賦存量の約5%程度の

しか利用できないという試算結果(独立行政法人新エネルギー・産

業技術総合開発機構の算出基準による)もあり、効率的搬出方法の取組みが鍵を握っている。

なお、この調査報告書で言われている「未利用間伐材等」は、いわゆる「32円材」とイコールではないことに注意が必要である。

前述の通り、「32円材」は、間伐を除くと、森林経営計画対象森林、保安林、国有林由来の材に限られる。岩手県における素材生産量のうち、民有林からの生産量は、針葉樹では全体のおよそ8割、広葉樹では9割以上を占めている。一方、岩手県内の森林経営計画認定実績面積は、本年3月末現在で民有林面積全体の2割弱と言われている。「32円材」の主力は、当面の間、国有林や保安林からの出材分と、間伐材になると考えられる。

再生可能エネルギー電気の価格は「通常必要となるコストを基礎に適正な利潤などを勘案して定めらる」とされている。需要側、供給側双方が利益を確保できるように、取組みを進めていきたい。

### NJ素流協経営技術研修会「林業用機械の現状と開発方向」を開催

3月6日岩手県滝沢市のいわて産業文化センター(アピオ)において、当NJ素流協の経営技術研修会が開催され、組合員と事務局あわせて約50名が出席した。今回は初めての試みとして、林業機械メーカー各社から営業担当責任者が講師として招かれ、林業機械の開発や販売についての現状と今後の方向性を聞いた。参加企業は50音順に、イワフジ工業(株)、キャタピラー東北(株)、コマツ岩手(株)、住友建機販売(株)、日立建機日本(株)。初めに、各種高性能林業機械を開発しているイワフジ工業の代表取締役社長及川雅之氏が、同社の沿革と林業機械開発の展望を語った。続いて各ベースマシンの主要メーカー各社が発表を行い、それに対して質疑応答が行われた。「ベースマシンに装着するアタッチメントを特定のメーカーに限らず装着することは可能か」などの質問があり、各社是对応実績や方針について回答した。

### 地域けん引型林業経営体成果発表会で組合員が発表

3月12日、盛岡市のエスポワールいわて大ホールにおいて、岩手県森林整備課主催「地域けん引型林業経営体成果発表会」が開催された。

森林施業に係る成果発表として、搬出間伐及び更新伐に取り組んだ6経営体が成果を発表した。宮経営コンサルタンツ事務所代表宮健氏、独立行政法人森林総合研究所東北支所森林資源管理研究グループ長天野智将氏ら4名の審査員による審査の結果、(有)二和木材が最優秀賞を、(有)山一木材、遠野地方森林組合が優秀賞を受賞した。施業の集約化、低コスト化の取組みが高く評価



受賞した発表者の皆さん

された。  
また、地域森林経営プランを策定した経営体の中から、優秀事例として明和フォレストック(有)及び(株)柴田産業がプランの内容を発表した。

### NJ素流協理事会を開催

3月18日、盛岡市の農林会館においてNJ素流協理事会を開催し、理事8名、監事2名が出席した。平成25年度収支決算見込み、26年度事業計画等の議案について審議が行われ、原案どおり可決された。

### 韓国視察団が木質バイオマス活用状況を視察

3月19、20日の2日間にわたり、独立行政法人森林総合研究所からの依頼を受け、韓国からの視察団をNJ素流協が受け入れた。

来訪されたのは、韓国木材再活用協会会長 徐大源氏、同協会専門委員 劉聲陳氏、韓国合板ボード協会理事 鄭夏頭氏、韓国木材新聞代表 徐範錫氏の4名。今回の来日の目的は、林地残材のバイオマス発電利用及び木質バイオマス

資源の再活用に関する視察見学である。韓国の年間素材生産量は日本の約3分の1にあたる約500万m<sup>3</sup>で、生産量の2〜3割が製材用となり、残りの大半はMDFなどの繊維版やパーティクルボードに加工されている。バイオマス発電所は1万kW/時を超える規模のものが20基ほどあり、燃料は輸入の木質ペレットが主体である。

今回の視察では、(株)小笠原林業の伐採現場、(株)ウツティかわい区界バイオマス発電所、奥州循環システム(株)を訪問し、木質バイオマス資源の活用状況を見学した。対応していただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。



伐採現場の視察

# 今月の名木・巨木 17

(宮古市)

宮古市指定天然記念物

## 小堀内の唐傘松

指定：1984年1月23日

所在：岩手県宮古市田老向新田



れ、生きている部分も幹内部が空洞化しており、徐々に樹勢が衰えているようであった。

独立行政法人森林総合研究所林木育種センターが実施する「林木遺伝子1

10番」では、宮古市からの要請を受け、平成18年に唐傘松の枝を採穂、接ぎ木によって増殖を行った。3年間育てられた後継樹は平成21年に里帰りを果たし、親木の前に植栽された(写真手前)。

小堀内の唐傘松は、宮古市田老の宿泊施設、グリーンピア三陸みやこの敷地内にある。ホテルから15分ほど歩くと、リアス式海岸の絶景を望む「唐傘松展望台」に到着する。

樹齢約250年、樹高8m、幹周り3.35mのアカマツは、その美しい姿から唐傘松と名付けられた名木であるが、二手に分かれた幹の片方は既に枯

田老地区は、昭和36年5月に発生した「三陸フェーン大火」の被害を受け、全町の3分の2にあたる5861haの山林が焼き尽くされたが、この周辺では唐傘松だけが生き残り、田老地区では最も古いアカマツとされている。また嘉永6(1853)年に3万人が結集したという「三閉伊一揆」ではこの周辺が集結地となり、唐傘松が歴史の目撃者となった、ともいわれている。

3年前の3月11日、田老地区の中心街は、巨大防潮堤をも超えた大津波により壊滅的な被害を受け、人々の暮ら

しそのものが一瞬にして失われた。現在、グリーンピア三陸みやこの広い敷地内には、約400戸の仮設住宅や仮設店舗が並び、多くの方々がここで生活しているが、復興が遅々として進まない状況の中、地元を離れる方も少な

くないようだ。  
3年が経った今でも物心両面の傷は癒える訳もないが、これまでも幾多の苦難を乗り越えてきたように、一歩ずつでも前に進んでほしい、と願わずにいられない。

### 冗談欄 「死に待ち族」

熟年とは何歳からいうのかわからないが、ある程度の域に達し、もうそれ以上の向上は望めない、どちらかと言うと下り坂に差し掛かっている状態からの年齢のように思える。

私に「何でこんな人と結婚したんだろう。私の青春を返して」と言われている。これから先、妻に嫌われ離婚の危機に陥らないための方策は、「①休日の1食は夫が作り、妻に楽をさせてあげる。②妻を家庭に縛らず、個人としての考え方や存在を尊重する。③妻に嘘をつかない、誠実な姿勢に心掛ける」ことなそう、要するに「おもいやり」をもって接することのようである。

熟年と言え、近年はあまり言われなくなりましたが、一時、定年を迎えると同時に奥さんから離婚を宣告される、いわゆる熟年離婚が話題になった。熟年離婚をされやすい夫とは、五十音のさ行での言葉の当てはまる人なそうである。

世の高齢奥様方は、夫には何も期待していない「死に待ち族」なのだから。

「さ…財産のある夫。し…仕事一筋の夫。す…助平な夫。せ…世間体を

平成26年3月分の販売実績

- 1 合板用出荷量を前月と比較すると、スギが約610m<sup>3</sup>減少、カラマツが約1,450m<sup>3</sup>減少、アカマツが約1,790m<sup>3</sup>減少し、全体では約4,330m<sup>3</sup>減少している。昨年同月と比較すると、スギが約1,060m<sup>3</sup>増加、カラマツが約3,170m<sup>3</sup>減少、アカマツが約2,670m<sup>3</sup>減少し、全体では約4,950m<sup>3</sup>減少している。今月のシステム販売取扱量は約70m<sup>3</sup>であった。
- 2 その他(合板用以外)の出荷量は前月より約4,610m<sup>3</sup>増加、昨年同月より約5,080m<sup>3</sup>増加している。
- 3 今年度の年間計画量258,000m<sup>3</sup>に対する全体出荷実績の割合は、計画を10.6ポイント下回る89.4%となった。

(m<sup>3</sup>)

樹種	長級(m)	当 月 出 荷 量			今 年 度 累 計			
		合板用	その他 製材用等	計	合板用	樹種別 割合(%)	その他 製材用等	計
スギ	2.0	4,553		( 73)	49,994	48.5	38,067	( 2,728)
	4.0	2,924			31,659			
	計	( 73) 7,477			4,827			
カラマツ	2.0	997		( 73)	36,064	28.5	13,190	( 1,151)
	4.0	262			11,960			
	計	1,259			4,135			
アカマツ	2.0	1,608		( 73)	25,075	19.1	4,275	( 318)
	4.0	41			7,181			
	計	1,650			409			
その他針葉樹		694	536	1,231	6,450	3.8	6,151	12,601
広葉樹			150	150	117	0.1	569	686
合計		( 73) 11,080	10,058	( 73) 21,138	( 4,197) 168,500	100.0	62,252	( 4,197) 230,753
目標達成率(%)								89.4
計画量								258,000

( ) はシステム販売取扱量(内数)

落穂拾い

いつの頃だったか、わが国において、「本当は恐ろしいグリム童話」といった類の本が出版され、ベストセラーになったことがある。現在の日本の子供たちが読んでいるグリム童話が、昔から言い伝えられてきた元もとの童話の内容と違っており、童話の中の恐ろしい部分が削られたり省略されたりしている、と言っているのである。現代の日本の親たちは、まだ無垢で純真な子供たちを童話の中の残酷な部分に晒すことなくできるだけ無菌状態で育てようと考えて、童話の中の残酷な部分を削ることを求めたのかもしれない。だが、昔からある童話の中の残酷な部分を削ることで、子供は真人間に育つと考えるのであるのか。もしそうだとすれば、それはちょっと違うのではないか。

グリム童話は、グリム兄弟が今から二百年ほど前にドイツ国のあるゆる昔話を集めて、整理して、まとめたものである。また、かの有名な「イソップ物語」は、日本では安土桃山時代から知られており、ポルトガルの宣教師によってわが国にもたらされ、江戸時代を経て現在まで読まれ続けている。この物語の作者のイソップは、二千五百年くらい前のギリシャ人であるが、その特徴は多くの動物を主人公として、その行動や性格にことよせて処世訓を説くものである。日本にだってたくさん昔話がある。かつて日本の家庭では話し上手のおばあさんがいて、孫たちに昔話を話して聞かせたものだが、今では核家族になって、おばあさんと一緒に住むことが少なくなってきたし、たとえおばあさんが居ても、今のおばあさんは昔話を知らない。

グリム童話でもイソップ物語でも日本の昔話でも、例外なく残酷なものである。グリム童話の『ヘンゼルとグレーテル』は怖い話だ。(貧しい木こりの夫婦は、二人の子供を捨てなければ、飢饉で自分たちが餓死する。「お前さん、子供たち

を明日森の中に置き去りにしてきておくれ」と継母は言う。ヘンゼルはそれをこっそり聞いて翌日深い森の中に入るとき、小石を一つずつ捨てて行った。夜になっても父母は迎えに来ない。妹のグレーテルは泣き出す。兄は言う「待っておいで。いま月が出るから」。月が出るのと捨ててきた小石がキラキラ光って道筋が分かり、無事に家に帰ることができた。その時の父親の嬉しそうな顔、それでいて困ったような複雑な顔つき。)

イソップ物語の『蟬と蟻』も残酷な話である。(蟬は夏中歌って暮らした。蟻はせっせと働いて過ごした。さて秋が来て冬が来て、蟬は空腹に耐えかねて、よるめいて蟻の家の戸を叩いて食物を恵んでくれと頼んだ。蟻は、「君は夏中何をして暮らしていたら、楽しく歌って暮らしていたな。そんなら冬は踊って暮らせ」と、戸をびしゃりと閉めた。)

日本の昔話の「カチカチ山」なんてひどい話ではある。(狸がお婆さんを殺して、その肉を煮て「狸汁」と言ってお爺さんに食わせる。お爺さんは、美味い、美味いと言って何杯も食う。その後で狸は、お爺さんに「今食った狸汁は、婆さんのからだの肉だ」と言ってお爺さんに逃げ去る。この後は、兎が出てきて、狸をだまして泥船に乗せて狸を海に沈めてしまおう、という復讐劇が続くのであるが、この辺でやめておく。

いずれにしても、遠い昔から伝えられてきた、あるいは残ってきたというべきか、童話・電話・昔話が長い年月を綿々と継承されてきたのには意味があるのだ。これらの話には、人間が生きていくために必要な処世訓が含まれている、すなわち、人間社会に不可欠なモラルが示されているのである。だから、童話や昔話はその内容を削除したり、省略したりして改変してはいけないのである。

故山本夏彦氏が言っていた。「いまさら昔話に残酷なところがあると知るなんて、手遅れである」。また、「我々は、過ぎ去った昔に戻ることはできない」とも言っている。